

1 学校教育目標

○よく考え進んでやりぬく子 ○あかるく強くたくましい子 ○みんな仲よく助け合う子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

| | |
|---------|---|
| ○学校像 | ○確かな学力、心の力、体力を確実に高めることができる学校 ○児童、保護者、地域、教師が協働し、安全、安心で皆から愛される学校 |
| ○児童・生徒像 | ○友達を大切にし、相手の立場を考えて行動し、どのような人とも公平公正に関わることができる児童 ○様々なことに挑戦し、目標に向かって努力し、課題解決しようとする児童 |
| ○教師像 | ○子供たちに深い愛情を注ぎ、いけないことはいけないと毅然とした指導ができる教師 ○教師仲間同士協力し、助け合い、鹿一小の子供たちの成長を伸ばすことができる教師 ○子供と共に協力し、授業力向上のために努力を惜しまない教師 |

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状】

○地域が協力的であり、「私たちの町の学校」という雰囲気をもっている。そのため子供たちが校外で遊んでいる場面でもいけないことをしっかり指導してくれ、子供たちを温かく見守ってくれている。

○子供たちはとても素直であり、教師の指導に従順に従って行動できる反面、教師の指示を待っているのみで、自ら考えて行動することができる児童が多いとは言えないところが見られる。教師側も過干渉になることがあり、児童の思考を止めてしまうことがある。

【前年度の成果と課題】

重点的な取組事項ー1 学力の向上 ○基礎学力向上策を充実させ、定着を図る→区調査通過率 80%以上＝R3 年度 2 科達成

重点的な取組事項ー2 幼保小中の連携 ○連携の推進と円滑な接続をめざす→教員の充実度は図れず。2 度の会議は実施できず。

重点的な取り組み事項ー3 心の教育の推進 ○自他を尊重する気持ちと態度の育成をめざす→児童の肯定的な自己評価 80%以上＝学校評価 3.5/5

4 重点的な取組事項

| | 内 容 | 実施期間（年度） R: 令和 | | | | |
|---|----------------|----------------|----|----|----|----|
| | | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 |
| 1 | 学力向上アクションプラン | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 2 | 授業力の向上並びに学力の向上 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 3 | 幼保小中の連携 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 4 | 心の教育の推進 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

5 令和4年度の重点目標

| 重点的な取組事項－ 1 | | 学力向上アクションプラン | | | | | | | |
|---------------------------------|----------------------|-------------------------------|--------------|---|----------------------------|-------------------------------|-----------|-------------|-------------|
| A 今年度の成果目標 | | 達成基準 (目標通過率) | | 実施結果 (通過率結果) | | コメント・課題 | | 達成度 ◎○△● | |
| ・ 単元テスト 80％以上を学級の 80％以上を達成する | | ・ 区調査通過率 80％ ・ 単元テスト 80％以上 | | 自己評価の際に記入 | | | | | |
| B 目標実現に向けた取組み | | | | | | | | | |
| 新・継 | アクション プラン | 対象 実施教科 | 頻度・ 実施時期 | 具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように) | 達成確認 方法 | 達成目標 (＝数値) (いつ・何を・どの程度) | 実施結果 | コメント・課題 | 達成度 ◎○△● |
| 1 新規 | 休業中の 単元克服 特別講習 | CD 層児童 算数 | 各 長 期 休業中 | ・ 校長が到達目標値の低い 単元を厳選し、短期集中の 克服講習を実施する | ・ 修了認定テ ストにて評価 | ・ 講習終了ごと にテストでの 到達 85％ | 自己評価の際に記入 | | |
| 継続 | パワ ー ア ップ タイ ム | 全児童 算数 国語 | 朝の 時間 | ・ 各学級、専科教員が基礎 基本の習熟を図る。 | ・ 小テストで も得点確認 | ・ 小テストの 到達 90％以上 | | | |
| 継続 | プレイ バ ック タイ ム | CD 層児童 算数 国語 | 放課後 | ・ CD 層の児童を放課後に基 礎基本の習熟のために指 導する | ・ 小テストで も得点確認 | ・ 小テストの 到達 90％以上 | | | |
| 継続 | 朝読書 | 全児童 国語 | 水の朝 | ・ 全学級で朝の 15 分間集 中して読書をする。 | 決まった本を しっかり読ん でいるか | 読書カードに て冊数の確認 | | | |
| 継続 | ICT 機器の 有効な活用 | 全教員 全教科 | 随時 | ICT 機器の効果的な活用を 推進する。AI ドリルの効果 的な活用 | 年 3 回中 1 回 の授業観察時 | ICT 機器を使用 した授業を行 う。 | | | |
| 継続 | 家庭学習 の定着と 充実 | 全児童 国語 算数 | 毎日 | 【指導者】各担任 【目的】学習内容の定着及び 家庭学習の習慣化。 AI ドリルを活用し達成度を 把握する。 | 毎日の家庭学 習状況の点検 と実施率把握 | 全員 100％ | | | |
| | | | | | | | | | |

| | | | | | |
|--------------------------------------|--|---|-----------|---------|-----|
| 重点的な取組事項－２ | | 授業力の向上並びに学力の向上 | | | |
| A 今年度の成果目標 | | 達成基準 | 実施結果 | コメント・課題 | 達成度 |
| 当該学年での学習内容の確実な定着 | | 単元テスト一通過率（国算２科）80％以上の児童を学級の80％以上 区調査令和３年度目標通過率80％ | 自己評価の際に記入 | | |
| B 目標実現に向けた取組み | | | | | |
| 項目 | 達成基準 | 具体的な方策 | 実施結果 | コメント・課題 | 達成度 |
| パワーアップタイム | ・朝読書（水） ・基礎学習（火、木） | ・学力調査分析を基に学年全体の課題となる内容を吟味し段階的に定着を図っていく。 | 自己評価の際に記入 | | |
| 放課後補充指導・補習指導の充実 | 全学年原則毎日 | ・全校体制で指導に取り組む。 系統化した内容を行う。 | | | |
| 校長塾の実施 | 校長による個別指導 | ・毎昼休みの補充教室に下位層の児童を取り出し、管理職が指導を行う。 | | | |
| 【指導力向上】 校内初任研、若手研修会、ミドルリーダー研修会の実施 | ・初任研、若手研、ミドルリーダー研各20回 授業観察後の「アドバイスシート」を発行し啓発 ・校長室だより「おおぞら」にて授業スキルの紹介 | 【指導者体制】 初任、若手研（校長、主幹教諭、主任教諭）ミドルリーダー研修（副校長、主幹教諭） 【目的】授業観察を軸とした授業力指導力向上リーダーシップ力育成 | | | |

| | | | | | |
|----------------------------------|-------------------------------|--|-----------|---------|-----|
| 重点的な取組事項－ 3 | | 幼保小中の連携 | | | |
| A 今年度の成果目標 | | 達成基準 | 実施結果 | コメント・課題 | 達成度 |
| 連携の推進を通して、円滑な接続とともに、欠落のない接続を目指す。 | | ・効果的な連携ができたと考える教員 100％ ・学校評価 3.5 以上 | 自己評価の際に記入 | | |
| B 目標実現に向けた取組み | | | | | |
| 項目 | 達成基準 | 具体的な方策 | 実施結果 | コメント・課題 | 達成度 |
| 中学校教員との交流 | ・準備委員会 2 回 各校 1 回ずつ授業公開・研究 | ・各教科の研究授業実施（年 2 回） | 自己評価の際に記入 | | |
| 保育園との交流 | ・保育園の保護者会参加 | ・年長保護者会での校長講話の実施（各園 1 回） | | | |
| 教員同士と児童、生徒同士の交流 | ・教員間の情報交換 ・年長、1 年担任との情報交換 | ・情報共有会の開催（年 2 回） | | | |
| | | | | | |

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

自己評価の際に記入します。
経営計画の策定段階では、このページは行数を減らして圧縮したり、ページ自体を削除したりした上で、公表していただいても差し支えありません。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

(3) その他（学校教育活動全般について）